

## 第15回 HVTTシンポジウム 報告

15th HVTT (Heavy Vehicle Transport Technology)

笹 圭樹<sup>1</sup> 剣持 健<sup>2</sup>

By Keiju SASA and Takeshi KENMOCHI

## 1 はじめに

HVTT (Heavy Vehicle Transport Technology) はIFRTT (The International Forum on Road Transport Technology) における商用車や道路の貨物輸送に関する専門家同士の知識や経験の交換の場として設立されたシンポジウムである。1986年からおよそ2年に1度の頻度で開かれており、これまでにスウェーデンやニュージーランドが開催地となっている。本稿では2018年の第15回HVTTシンポジウムについて紹介する。

## 2 第15回HVTTシンポジウムについて

第15回HVTTシンポジウム (HVTT 15) は、2018年10月2日～10月5日の4日間、オランダのロッテルダムで開催された。シンポジウムの主なテーマは、3つのトピックと13の項目から構成されている。3つのトピックは、商用車の技術のようにハードに関するもの、インフラ管理のようにソフトに関するものなど、ハード・ソフトの両方に関する内容となっている。なお、シンポジウムでは、隊列走行などの新たな物流システムに関する取組みや都市内物流、貨物車の安全性など、商用車や貨物輸送に関する様々な题目的セッションが開かれた。

## (1) セッション

開かれたセッションは、全員参加のプレナリーセッションが3つ、同じ時間帯に3つ程度のセッションが開かれるパラレルセッションが24、才能ある若者がプレゼンや討論を行うヤングタレントセッションがあった。プレナリーセッションは、一つの題目(都市内物流など)について、司会の進行のもとで複数の発表者が発表を行い、発表のあとに題目に沿った議論や討論を行う。パラレルセッションは、同時時間帯に開催される題

目のセッションごとの部屋に分かれて、発表者が発表を行った後に質疑応答を行う形である。ヤングタレントセッションは、起業した若者など、複数人の才能ある若者による議論、討論が行われた。

表-1 HVTT 15の主なテーマ

3つのトピック	商用車の技術
	インフラ管理と空間プランニング
	物流の挑戦
13個の項目	低炭素輸送
	大型トラック
	基準と規制
	ドライバー支援と隊列走行
	インフラの利用と時間信頼性
	道路舗装や橋梁のライフサイクルコスト
	安全で機動性の高いスマートなシャーシのシステム
	輸送のオペレーションとライフサイクルの分析
	貨物の量、生産性と傾向
	スマートな物流と接続性
	法令遵守と施行
	マルチモーダル輸送
	都市と地域の活気

(出典: HVTT 15のHP)



写真-1 プレナリーセッションの様子

(出典: HVTT 15のHP)



写真-2 パラレルセッションの様子



写真-3 ヤングタレントセッションの様子

(出典：HVTT 15のHP)

パラレルセッションの中には、新技術を活用したトラックの隊列走行に関するセッションがあり、ヨーロッパの隊列走行実験の多くに参画しているオランダのTNOによる隊列走行実験のこれまでの取り組みや進捗状況に関する発表がなされた。その他にも、シナリオベースによるトラック隊列走行の橋梁への影響や車線変更等における安全性の評価に関する考察、隊列走行が実現した場合の燃費向上や労働時間の効率化に関する考察を行った研究が見受けられた。

## (2) ロッテルダム港の見学

シンポジウムの最終日は、港湾の一部で荷役が自動化されているロッテルダム港の見学が行われた。ロッテルダム港は、コンテナ取扱量が世界で第12位<sup>2)</sup>(2016年時点)となっており、また、ヨーロッパ最大の港として知られている。ロッテルダム港の見学は、ユーロポート地区とマースフラクテ地区で行われ、実際の荷役の見学や船による港湾内の見学、港湾の概要説明を受けた。

荷役については、船舶からの荷下ろしや降ろした荷物の移動までシステムにより自動化されているエリア

があった。しかし説明を聞くところによると、自動化は人が作業するよりも時間が掛かっており、時間的な効率性はまだ人による作業の方が良いとのことであった。



写真-4 ロッテルダム港の荷役が自動化されたエリア

## 3 おわりに

HVTT 15は、その名の通り、商用車に関するセッションや知識交換のための場として開催されており、トラックメーカーの社員や大型貨物車に関する研究者、物流に関する交通の専門家などが世界中から集まり、意見交換や知識交換を行っていた。

他国の物流に関する取り組みや課題に関する知識や意見交換が可能であることから、商用車という特定のトピックではあるものの、世界中の意見が交わされるこのシンポジウムは大変有意義なものであると感じられた。

## 参考文献

- 1) HVTT 15ホームページ (<http://www.hvtt15.com/#>)
- 2) 日本港湾協会 港湾政策研究所 港湾物流情報 世界の港湾のコンテナ量ランキング (<https://www.phaj.or.jp/distribution/earth/top100.html>)